



① 古天神 (古国分の綱敷天満神社) ※桜井1丁目/天神原  
桜井地域には、菅原道真が太宰府へ左遷される際に、時化で避難した伝説が残る。住民が船具の綱を敷物代わりにもてなしたことが、社名の由来となっている。祭神は菅原道真。



② 新天神 (桜井の綱敷天満神社) ※志島ヶ原の一面  
江戸時代中期に、今治藩領の綱敷天満神社で不祥事が起こり、しばらく祭礼が中止となったため、松山藩領の人々が新たに勧請。今治領の古天神に対し、松山領は新天神と呼ぶ。



唐子浜 ※古国分  
燧灘に臨む白砂青松の海岸で、海浜植物のハマゴウ群落やこれを食草とするヤマトマダラバッターが確認できる。この沖合約230mに、来島海峡から移築保存された赤灯台がある。



唐子浜の赤灯台 (旧、コノ瀬灯標) ※古国分  
明治35(1902)年4月1日に来島海峡のコノ瀬暗礁で初点灯。昭和53(1978)年3月に業務を終え、同年10月に移築保存されてモニュメントとなった(赤色円形石造)。



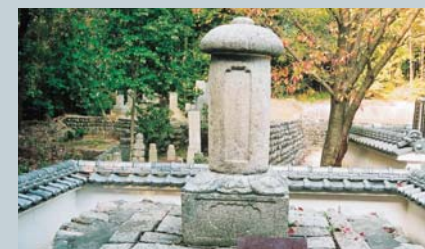
③ 志島ヶ原 ※33,000坪  
燧灘に臨む白砂青松の海岸に、アカマツ・クロマツ約2,500本と紅白の梅約500本があり、国指定名勝となっている。また、敷地内に新天神・お台場・衣干岩などの名所旧跡もある。



④ 小谷屋漆器店 ※桜井4丁目/栄町  
幕末期頃から椀舟行商を行っていた桜井有数の漆器問屋で、椀舟の船旗・航海日誌を所蔵。店舗は明治期竣工の木造つ二階建てで、大正期竣工の木造三階建て離れも現存する。



今治藩主の墓 ※古国分 県道38号線沿い  
今治藩主・久松松平家の霊廟で、県指定史跡。今治で没した初代定房・3代定陳・4代定基の宝篋印塔3基(高さ3.6m)と大小の石灯籠67基が現存する。梅鉢紋が同家の家紋。



脇屋義助の墓 ※国分 国分寺の東約400m  
新田義貞の弟・脇屋義助の霊廟で、江戸時代に整備された。義助は、興国3(1342)年に中・四国の南朝勢力巻き返しを担って今治(伊予府中)へ赴任するも、間もなく病没。



⑤ 肥前灯ろう (1対)  
※新天神の社殿前  
綱敷天満宮950年祭を記念して、嘉永5(1852)年に肥前伊万里の陶器屋仲間が寄進したもので、高さ約4.4m。桜井商人は、黒江漆器と伊万里陶器を椀舟行商で多く売りさばいた。

肥前伊万里は、現在の佐賀県伊万里市。紀黒江は、現在の和歌山県海南市。



⑥ 石造灯明台  
※新天神の西口付近  
今治藩の廻船御用商人・柳瀬義富が幕末期頃に寄進した石造灯明台(花崗岩製)で、高さ約5.8m。新天神は松山藩領であったが、玉垣等の寄進者は今治商人も多く確認できる。

新天神社殿横の絵馬掛けの玉垣には、寄進者である船主の船名が多く刻まれる。



国分山城跡 (唐子山) 標高は約105m  
福島正則が伊予領有時代(1587~95)に織豊系城郭として整備か。麓の耕地や市街地に城下町の地名や短冊状地割が残っている。最後の城主は小川祐忠で、関ヶ原合戦後に廃城。



伊予国分寺塔跡 ※国分 国分寺の東約100m  
伊予国分寺は、奈良時代の8世紀半ばに建立された。現存するのは塔跡の礎石と基壇のみで、国指定史跡。JR伊予桜井駅の近くにも古代寺院の礎石が残る(伝、伊予国分尼寺塔跡)。